

172

第5回 全国パトロール技術競技大会

総合

平成2年3月23日(金)

ゼッケン	チーム名	三角巾 包帯法		ロープ操法		スノーボード搬送操法		総 合	
		順位	得 点	順位	得 点	順位	得 点	順位	得 点
5	福島C	2	88.73	3	140.08	8	188.62	1	417.43
6	群馬A	12	134.80	1	105.76	7	186.54	2	427.10
2	宮城A	3	99.99	4	143.20	9	193.22	3	436.41
12	山形B	6	107.67	7	173.43	1	160.85	4	441.95
20	岐阜B	7	111.05	9	181.72	2	162.48	5	455.25
1	山形A	9	123.70	8	176.90	3	162.50	6	463.10
16	北海道	13	135.07	2	133.58	11	205.56	7	474.21
19	長野B	5	107.26	6	170.22	12	210.38	8	487.86
21	福島B	4	106.73	15	219.10	4	181.35	9	507.18
15	岩手A	18	149.47	11	188.74	6	184.24	10	522.45
10	福島D	15	143.22	5	163.90	14	219.04	11	526.16
14	青森A	11	128.28	10	187.38	13	218.30	12	533.96
3	秋田B	10	124.90	17	229.86	10	198.20	13	552.96
13	石川A	16	143.33	18	231.08	5	183.54	14	557.95
4	長野A	14	136.41	12	191.58	18	273.51	15	601.50
11	秋田A	17	146.62	13	194.22	16	263.78	16	604.62
17	福島A	1	83.27	16	221.20	20	322.16	17	626.63
7	岐阜A	8	118.74	20	240.28	14	270.95	18	629.97
18	宮城B	20	177.41	19	231.80	15	235.26	19	644.47
9	富山A	19	150.74	14	199.10	19	301.03	20	650.87

(山形市蔵王スキー場)

競技委員長 高橋 賢一

平成2年度SAJ公認パトロール研修会第1会場報告

実施責任者 清野 市治
報告者 速水 修

1. 会 期 3泊4日
 役員集合 平成2年1月18日(木) 16:00
 開 会 1月19日(金) 13:00
 閉 会 1月21日(日) 11:00

2. 会 場 ルスツ高原スキー場(北海道)

3. 役 員

責任者 清野 市治
 主任講師 速水 修
 会場担当 中野 進
 講 師 中山不二夫 高田 善宏 本宮 守 小林 清繁
 伊勢谷重雄 松本 徹也 藤田 隆明 坂口 和夫
 地元協力 北海道スキー連盟傷対技術委員 神田 武幸

4. 参加者

申込者 102名, 欠席者 6名, 参加者 96名

5. 概 況

雪上実技では、本年度より検定で採用されるアキヤボートの操法及び基礎種目として加わった谷開きシュテムターンを中心に研修を行った。室内での講義・実技のうち、実践救急機材の取扱い法(日本メデイコ)、スキー傷害の法的諸問題について(AIU)、スキー場安全標識について(秋山産業)は、各々外部講師が担当した。

研修会の理論テーマである「スキー傷害の実態」については、予め参加者の地区毎に依頼してあった代表者より発表をしてもらい、活発な意見交換、情報交換が成された。

SAJ報告の中で特にアメリカナショナルスキーパトロールとのWEC(冬期救急法)会議の報告は多くの参加者が強い関心を示していた。

最終日の雪上総括では、実際の負傷者を想定し事故の調査から救急処置、運搬に至るまで実践的な研修になるよう配慮した。

6. 所 見

パトロールの研修会は指導員の研修会と比較し、用具、機材の確保が必要であり、例えば今回アキヤボートが3台しか都合できず、またその借用料にも苦悩するなど参加料のみの運営には限界があり、今後の問題点が指摘された。